

2021 / 03 / 17 光赤天連総会 質疑記録

SPICA報告(山村)

河合：光赤天連から経緯を調査してまとめるということは計画されているか？

野上：宇宙研の中で検討委員会が立ち上がっており、そこに光赤天連の委員長として参加している。プロジェクト推進の体制や今後の大型国際ミッションをどのように進めていくかについても含めて検証している。その報告は6月あたりに出る予定。

河合：推進体制という話になると宇宙研から研究者コミュニティに責任が転嫁されてしまうように感じる。SPICA/WISH の選択の議論などは光赤天連において行われたものであり、その過程はコミュニティでも検証する必要があるのではないか。

栗田：そのような議論では当時の光赤天連運営委員も参加することになるか。

野上：意見を踏まえこれからどのような形で進めるかを検討する。

データアーカイブWG活動報告(古澤)

河合：SMOKAでは中小望遠鏡のデータもアーカイブされている、それらも含めて発展させることが想定されているか。

古澤：SMOKAでカバーされている中小望遠鏡のデータについてもスコープに入っている。

2030年代将来計画検討ワーキンググループの報告(大内)

児玉：SPICAの中止を受けてどのように議論されているか？

大内：2030WGではSPICA中止の経緯についての意見交換を行い、今後のプロジェクトの提案につながるよう議論している。

学術会議マスタープラン 2023 への推薦について(野上)

長尾：重点大型へのコミュニティからの推薦は3件以内を順位付けして、出来れば1件にする、との説明だが、先日の分科会からの公募の説明では3件以内となっていた点と異なる。できれば1件というのはどこから来ているのか？

深川：できれば1件というのは運営委員会での意見を反映した説明である。重点大型は10年のタイムスケールで最先端であり続け、研究者コミュニティに合意されている計画が想定される。実質的にはトップでの推薦のみが重点大型の最終推薦の議論に載るものだろう。

臼田：新規の計画を出すことは重要だが、一方で既に運用の進んでいるプロジェクトを推進することも重要。すばる2はマスタープラン、ロードマップに掲載されているが、予算的に

は削減されて厳しい状況は続いている。その点も含めてコミュニティとして議論してほしい。

深川：すばるについて今回のマスタープランに LoI を出す必要はないが、光赤外コミュニティとしてすばる運用も含めて考える必要がある。